

# 歴史まち歩き

# 江戸時代の町名が今に残る 尾張名古屋のビジネス街

## 11 本町・基盤割・広小路 コース【那古野神社▶地下鉄伏見駅】

**1 那古野(なごや)神社**  
天文元年(1532年)、織田と今川が争った那古野合戦により焼失してしまいましたが、織田信秀(信長の父)により天文8年(1540年)に再建されました。名古屋城築城に際し障害となるため、那古野神社と若宮八幡社のどちらかを移すこととなり、徳川家康が御神籤(おみくじ)で神意を伺ったところ、那古野神社が遷座不可と出たため、そのまま城内三の丸に留まり城の鎮護、名古屋の氏神として祀られました。明治9年(1876年)に現在地へ移転。

**2 東照宮**  
日光、久能山、そして名古屋。尾張藩初代藩主・徳川義直が、元和5年(1619年)に、名古屋城・三の丸に社殿を建立し、父・徳川家康の神霊を祀ったのが始まりです。明治9年(1876年)、現在の場所に遷座しました。建物は権現造りの本殿をはじめ、渡殿、楼門、唐門、透塀など極彩色の諸建造物が並んでいましたが、戦災で大方焼けてしまいました。

**3 明倫尋常小学校後跡  
(ムクの木)**  
廃藩置県の後、明治5年(1872年)に明倫尋常小学校ができました。戦災で焼失しましたが、ここに名古屋城築城前からあるというムクの木の大木は残りました。ここは文人横井也右の屋敷跡でもあります。横井也右は、もと尾張藩の寺社奉行で、俳文「鶉衣」の著者。

**4 茶屋四郎次郎邸跡**  
徳川家康ゆかりの尾州茶屋家跡。茶屋家は、朱印船貿易商人、中島家の分家で、尾張徳川家および幕府の呉服御用を務めていました。屋号が町名になるほど優遇されていました。

**5 四方示す石碑**  
「北 おしろ」「西 みのじ」「南 あつた」「東 ぜんこうじみち」と書いてあります。

**6 井筒屋跡(中北薬品)**  
安政二年(1855年)2月25日の夜、井筒屋(中北薬品の祖)の中北伊助方の風呂場より出火し、京町全域を燃え尽きました。井筒屋だけでも八千両の葉が灰になりました。(安政の大火)井筒屋は謝罪の意をこめて、立て直された店は周りの家より屋根が一尺(30cm)低かったそうです。また、現在に至るも中北家では戒めから、毎月二十五日は風呂をたかないそうです。

**7 少彦名神社**  
京町は、江戸の本町、大阪の道修町とならぶ日本三大薬屋の町として城下町時代から栄えたところです。その数ある薬屋たちが「薬祖神」として大正4年(1915年)に創建しました。祭神の少彦名命と大国主命は、ともに健康をつかさどる神、薬の神として知られています。

**8 河文**  
初代河内屋門左衛門は、名古屋市中川区から現在地の通称魚ノ棚(中区丸の内2丁目)に移住し、料理屋を始めました。元禄年間(1688~1704年)の創業と伝わる。名古屋では最も古い歴史を持つ料亭で、尾張徳川家や明治の元勳たちにも愛用されました。伊藤博文の書の掛け軸があります。名古屋城につながっているという井戸があります。

**9 長者町繊維問屋街**  
「長者町繊維問屋街」の看板が続く。戦後日本の三大繊維問屋街のひとつでした。近年は、アートの街として、あいちトリエンナーレの会場の一つになりました。なぜかビルの壁に絵があったりする楽しい街です。

**10 両口屋**  
寛永11年(1634年)摂州大阪から、両口屋是清の創業者である猿屋三郎右衛門がやってきました。尾張藩の御用達として活躍。貞享3年(1686年)には2代藩主光友公から直筆看板「御菓子所 両口屋是清」をいただいた。「千なり」(どら焼き)が有名。

**11 桜天神社**  
祭神は菅原道真。桜の大樹があったことから「桜天満宮」「桜天神」と呼ばれていました。名古屋城築上の際には加藤清正がこの地に本陣を構えて指揮を取り、また茶会を度々催した事が伝えられています。桜の大樹は万治3年(1660年)の万治の大火で焼失しましたが桜天神の名前は残り、やがて現在の桜通の由来となりました。歳の数だけ水をかけると願いがかなうという「願の水の牛」がある。後、ひしゃくに願いを書くようになりました。

**12 伝馬町札の辻跡**  
木曾街道(上街道)・下街道などに分岐する交通の要衝だったところで、名古屋の中心地として繁栄しました。慶長18年(1613年)、本町通伝馬町筋の交差点に、荷物の運搬に必要な人馬を継ぎ立てるため伝馬会所が設けられ、正保元年(1644年)には法度・掟書などを記した高札場が設置され札の辻と呼ばれるようになりました。名古屋からの距離はここを基点に測定しました。

**13 福生院**  
袋町筋(現在の袋町通)にあることから「袋町のお聖天様」と呼ばれ親しまれています。この寺かいわいが名古屋第一の芸者の組合・盛栄連の本拠地だった明治・大正・昭和の初めは大いに栄えた寺院です。福生院では、日本百観音霊場お砂踏みや本四国八十八ヶ所霊場お砂踏みがあったり、ほけ封じ観世音や縁結び金のわらじがあったりと、いろいろな神様がまつられています。

**14 錦通由来碑**  
「見わたせは柳桜をこきませて都そ春の錦なりける(古今和歌集 素性法師)」この歌の柳を広小路通南の柳葉師※の「柳」に、桜を桜通の「桜」に見立て、下の句のうちの「錦なりける」から「錦通」の名を命名したとされています。※広小路本町交差点付近にありました。

**15 中村呉服店跡  
(三菱東京UFJ銀行)**  
明治2年(1869年)。後、オリエンタル中村。現在三越。日本初の屋上観覧車あり。登録有形文化財。

**16 広小路**  
清洲越しの際に基盤割南端に敷設され、当初は堀切筋と呼ばれていました。万治3年(1660年)正月、名古屋城下の半分を焼き尽くした万治の大火(左義長火事)が起き、これを機に、道幅が3間(約5.5m)から約15間(約27.27m)に広げられたことにより、広小路と呼ばれるようになりました。明治31年には日本で2番目の電車が走り、大正から昭和初期には、通り沿いに屋台が立ち並び、広小路通の散策を、銀ブラならぬ「広ブラ」と称しました。

